

# 太陽の子

2015年 4月 No.151

春の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(23)2620

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール [mail@taiyonoie.com](mailto:mail@taiyonoie.com)

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立市太陽の家支える会



日本財団福祉車両助成事業にて新しい送迎車をいただきました。贈呈式の後にはみんなで記念撮影、サービスの輪が広がります。(日立太陽の家居宅介護事業所)

## 「きれいに咲いてね」もストレッチングス

NPO法人 日立太陽の家  
理事長 小 又 克 也

ここ数年毎年二回ずつ、サービス管理責任者研修のお手伝いをさせていただく機会に恵まれている。そのたびにサービス管理責任者にとって大切なものを再認識し、取り分け『ストレッチングス視点』の重要性については自分にとっても繰り返し学ぶ機会となっている。何年も続けて同じことを学んでいると、やがてはその考えが自分自身の考えになり新たな価値観を形成してくれる。

ストレッチングスとは、利用者のもつ潜在的な力、未活用能力のこと、また集団やコミュニティがもつストレッチングスもあるし、支援者のストレッチングスもこれもまた重要である。

この視点で利用者さんに接してみると、それぞれになんと沢山のストレッチングスに溢れているのかと驚かされる。それぞれの力に添って支援を行うこと、これが福祉の原点だったと改めて知らされる。

昨年十月、日立市から指定管理を受けた「日立市しいの木学園」の自主製品作りに、このストレッチングスに着目しデザイナーとして活かすことを試みている。ストレッチングスが込められた製品は、また別の隠されていたストレッチングスを生むから不思議だ。これは利用者ばかりではない、職員もそうだし、製品を購入してくださる方々も同様にストレッチングスを発見してくださる。

この春から夏にかけて、モーツァルトを聴いて育った「花」や「ハーブ」をお届けする予定。もちろん利用者さんたちの「きれいに咲いてね」の優しい言葉も毎日聞いてもらっているから、花たちもとびきりきれいに咲いてくれるだろう。

これらのしいの木学園の小さな一歩は、やがて大きなあゆみになるかもしれない。利用者さんがもつとと輝いたら、周りの人たちも、街全体ももつとと素敵になるに違いないと期待を抱かせてくれる。

# 利用者送迎について

日立市ひまわり学園  
管理者 菊地 祐二

生活介護事業所は、利用者の送迎を実施しています。太陽の家では、利用者の自宅に伺い、車椅子への乗降を手伝い送迎車に乗ります。その際、親や家族の方に協力していただきませんが、支援員が中心になり、なるべく親の介護負担を軽減できるよう配慮しています。

同じ生活介護事業所のひまわり学園は、学園大型バス送迎と各家庭の自家用車登園協力をいただいで行ってきましたが、平成二十七年より送迎に関する考え方を改め変更することになりました。



まず、従来の学園バスから学園所有のマイクロバスとワゴン車の二台での送迎に変更します。運転及び添乗は学園職員が行います。今まで学園バスの運行については、専属のプロの運転手に運転及び車両管理をお願いし、安全で安心して乗車することが出来ていました。しかし、各停車場降場所は、大型バス故に主要幹線道路に限られていました。そこで、家から乗車場所までの距離が長く徒歩では時間がかかり、乗車場所まで自家用車送迎の協力をお願いしていただきました。徒歩の場合でも信号のない主要道路を横断し、暴風雨に関わらず待つリスクやトイレの心配もあること、また、母親の介護や体力的負担軽減の必要性を感じていました。親の体調が優れない時、送迎ができず登園を諦めてしまったが、家では登園できないことへの不満が爆発してしまつた話を耳にする

と、毎日通うことを日課とし、楽しみにしている利用者の方には、親のやむを得ない都合での休園は受け入れられない現実でもあることがわかりま

した。

このようなことから、自宅、或いは自宅に近い乗車場所での乗降は、ぜひ実現させたい課題でした。まだ始まつたばかりですが、長時間乗車する利用者のトイレの心配や車酔い、または気分が優れず不安定になってしまうことも十分予想されます。そのような事態が生じた時は、その都度判断し、場合によってはコースの変更も出てくることをご理解いただきたいと思

います。学園の送迎車での送迎に無理なく応えていきたいと思

## ニーズに合わせて

日立太陽の家居宅介護事業所  
サービス提供責任者

中村 恵美

ますが、自家用車送迎の協力があること、または利用者が自力で路線バスに乗り登園する方もいます。そうした協力なくして学園の運営は成り立ちません。「親が頑張ればできる」という精神は失って欲しくはありませんが、私達職員は、「親が頑張るのは当たり前」とは決して思っています。同じ学園で生活する仲間同士、互いに助け合いながら利用者が楽しく安心して通える学園づくりへの協力とご理解を得ていけるよう、これからも意志疎通を図っていき

近頃サービスの内容が多岐にわたり、スタッフは日々刺激を受けています。これまで少なかった幼いお子さんのサービスが少しずつ増え、新しい歌を覚えたり、昔覚えた手遊び歌を記憶の隅から引っ張り出し相手をしてもらつたりと、とても新鮮です。時々居宅に来るお子さんに、ベテランの利用者さんたちもニコニコ笑つて太陽の世代間交流となつています。世代間交流といえ、子育て孫育ての中、職員間で予防接種や感染

症などママ情報を交換しており、世代関係なく盛り上がり、世代関係なく壁がない心地よさです。他にも増えているのが散髪の希望で散髪↓入浴↓昼食↓帰宅が多いです。訪問理容や床屋さん、スピードカットなど、ご本人とご家族の希望を聞いて選択してもらい負担の少ない体勢で受けられるよう、事前にスタッフ同士で打ち合わせをして対応しています。慣れない大きな音のする場所にドキドキする利用者さんの髪を床屋さんた

ちの技であつという間に仕上げてくれます。初めはドライヤーの音にドキドキしていた方が今ではすっかり慣れてサポートが要らないことも。散髪後みんなから、「素敵だね」と声を掛けられ嬉しそうにお風呂へ向かいます。さっぱりして昼食を食べ帰宅。散髪の日には「楽しい日」と感じていただければなあと思います。通院等介助のサービスもご家庭によりいろいろです。通院の送迎、付き添い、受診中のサポート、院外処方薬は後から家事援助でお届け、ご家庭に合った受診の仕方ができます。また受診時ご家族の依頼により同行して施設スタッフとして移乗や服薬の関わり方のアドバイスを医師にいただくこともあります。必要な情報は持ち帰り、施設間で共有します。新しい利用者の方も増え、装具の付け方やリハビリのお手伝いと学ぶことが多くなつています。事務所の賑やかな会話のほとんどが、毎日のように変化する利用者の方の情報や、次回へのアドバイスで溢れていて、スタッフの学ぶ姿勢に刺激を受けます。たくましいスタッフが提供するサービスが皆様にとつて大切な時間になることを願っています。



# 日立守る会だより

日立重症心身障害児（者）を守る会

愛しき息子の

入所に思う

佐藤 芳昭

我が子は当年五十才になり、四十五年前に申し込んでおいた入所施設に終の住処として入ることになりました。親としては、まだ早いか、あと二、三年先でも良いかなとは思ったのですが、自分達の年令、健康のこと、周囲の状況などを考えた結果、入所させる事に決めたのです。一月十三日に入所してから二ヶ月弱となりますが、五十年の長い年月起居を共にし、わけても障害を持つている息子であるだけに当然の事ながら毎日頭から離れることがありません。頭では理解している積りでも、ただ救われる点は、これまで三回程外泊（帰省）させたり、頻繁に面会に行ったりしていますが、外泊して施設へ戻る際は喜んでお泊りの仕事を戻して戻ってくる後を追うこともなく笑顔でバイバイを言うてくれる事であ

ります。すべては、長い間の太陽の家の生活や一人で泊る体験などがあつたからこそと思ひ、今更ながら太陽の家の素晴らしさを感じるとともに感謝しております。本当に有難うございました。常に私が思っている事ですが二十四時間間の在宅者支援体制が確立され、人生の終期を我が家で迎えられる事が一番良い姿ではないでしょうか。これから、愛しき息子や、在宅で頑張っておられる方々の為に体の続く限り、地域での重症心身障害児者福祉向上について思っております。

ありがとう

「太陽の家」

小俣 四郎

重度の障害をもって生まれたてきた娘、志津の症状改善を願って、県内外の病院を転々と受診入院し、療育ホームから太陽の子になって三十年余りになりました。

太陽の家の存在は、それま

で暗いトンネルの中に閉じこもってしまいたいようになる障害者とその家族にとつて社会の人達と交流できる一筋の光を与えてくれるトンネルの出口でした。規則的な生活のリズムと、家族以外の職員先生方や、同じ障害をもつ友達、お母さん方、ボランティアさんとの係わりの中で、皆に可愛がられて、志津のそばにはいつも明るい笑顔があり、「だっこ」するのが大好きで「ウフツ」と笑つてくれる度に癒されました。明るいお母さんになって、娘を連れていそいそと太陽に登園する姿は幸で平穏な日々で太陽の家は第二の我が家でした。

誤嚥性肺炎を繰り返しながらも懸命に生きて、命の大切さと生き抜く力を教えてくれた太陽での生活が一日でも永く続くことを祈りつつ自宅介護を続け、いつしかそれが家族の生き甲斐となっていました。太陽でのイベントや、ハワイへの海外旅行、沖縄、東京デイズツーランドなどたくさん楽しかった思い出を重ね、そのアルバムに廻っていたのだと今更のように思っています。

しかし昨年の春頃より両親が体調をくずし、経管栄養の体となった娘を自宅介護する

限界を感じ、迷いながらも茨城東病院に入所を決めました。永年通い慣れた太陽と突然の別れになってしまい、辛く悲しく気持ちの整理もつかずに志津のいないベッドの脇で、こみあげる淋しさに耐えています。忙しく何も考えずに介護に専念していた時が一番幸せな時間と、志津は我が家の太陽であつたと今思っています。手のかかった子供ほど愛しくて、離れるのは辛いものですが、いつ

## 天使の笑顔

僕が大きくなるにつれ、いつの間にか祖母が言う「天使の笑顔」というものがだんだん薄れてしまい、祖母や母は、つらい事や悲しい事があるたびに、ひよりちゃんを笑顔をみに行っていたのでしよう。その時、僕はやつとわかりました。ひよりちゃんの笑顔の意味が。

人は誰でも生まれてきた意味が必ずあるのです。ひよりちゃんにも、ひよりちゃんにしかできない事が……

僕は、無性にひよりちゃんの顔が見たくまりました。久しぶりに会うひよりちゃん、少し身体は大きくなつて

か来る「子離」の時に備えて、居宅や風の家を利用しておくことは、心の準備を手助けしてくれました。

最後に、弱い立場の障害者やその家族を支える「心」の中心として、太陽の家が設立された当初の理念のもと、時代を超えて引継がれていくことを心より願っています。

永い間お世話になり、優しい人達との出会いをくれた「太陽の家」ありがとう。

(2)

作・マヤー

いました。僕が、僕の顔を見て、不自由な手足を動かしながら元気に鈴を鳴らしてくれました。

そして、あの頃のままの笑顔を見せてくれました。

その時、何かわからない熱いものが込みあげてきました。

ひよりちゃん、ありがとう。

僕の代わりに、おばあちゃんや母さんの心を癒してくれていたらだね。

それから数年が経ち、僕は社会人になりました。

僕は今でも、仕事のストレスや人間関係で心が傷ついた時には、ひよりちゃんの顔を見

(次頁へ)



ビニールハウスが完成。利用者さんの愛情とモチアルトを聞いていた花たちが咲きはじめました。(しいの木学園)



おいしいご飯の時間。今日のメニューはカレーピラフ、マカロニのケチャップいため、サラダでした。おいしかった～。(風の家)



日立ロータリークラブ様よりカルテットサイクルを寄贈していただきました。いただいた後は、昼休みにグラウンドに出ることも多くなり楽しく遊んでいます。ぜひ皆さん乗りにきてください。(ひまわり学園)



多賀向上会の皆さんが訪問してくださいました。毎年善意のお気持ちをいただいています。ありがとうございます。(太陽の家)

(前頁から) 行って心をリフレッシュしています。もちろん、嬉しい事があった時も会いに行っています。  
「天使の笑顔」を見て、手を握るだけでも、つらい心はいつの間にか和らいでいるのです。そして、生きる勇気もとても不思議な感覚です。  
(次号へ続く)

### お知らせ

◎平成二十七年度  
日立太陽の家利用者数

百二十四名  
男性七十三名  
女性五十一名

#### ◎退園

- ・小俣 志津さん
- ・佐藤 瑞昭さん

二名の方が日立市太陽の家からそれぞれの施設へ中心となる場所を移しました。二人が残してくれた温もりはこれからもみんなを優しく包み込みしあわせへと導き、笑顔をもたらす源となるでしょう。

#### ◎入園

- ・根本 将伍さん 太陽の家
- ・越田 彩さん ひまわり学園

四月から入園されました。新たな一歩を踏み出しますね。沢山の出会いの中で自分らしく、充実した日々を過ご

せるようお手伝いしていきたいと思えます。  
◎平成二十六年度分、日本財団福祉車両助成事業により車いす対応車(軽自動車)の助成が決定、三月三日に日立太陽の家居宅介護事業所前にて贈呈式を行いました。より多くの利用者さんへのサービスの向上、地域支援に根付いていけるよう頑張ります。

#### ♪寄付ありがとうございました

◎次の方から寄付を頂きました(敬称略) 十二月～二月

- 善和会 多賀向上会 人形劇かくれんぼ 鈴木貫一 常井はしめ 佐藤芳昭、瑞昭 厚生医院島崎陽一、仁和会 小俣四郎、志津 中田美知子 今野啓子
- 次の方から物品の寄贈がありました(敬称略)
- 十二月～二月
- 椎名将光 小林豊 高橋光代 人形劇かくれんぼ 安斉純子 川又陽子 三浦信孝 とく名 前田あけみ 善和会

### 編集後記

日立市太陽の家は今年四十五周年を迎えます。パワー溢れる沢山のメッセージを皆さんに伝えていきたいと思えます。(K記)